長洲町立長洲小学校　校長便り　№36

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年9月30日(金)

独り言

9月が終わる。早い…。長洲小に着任してから半年が過ぎた。多くの子供達、保護者の皆様、地域の皆様に出会い、縁に感謝している。

先日、校区内のクリーニング店を訪れた。朝出して夕方ぱっちりのお店だ。そのお店での会話…

「校長先生だったんですね。遠くからわざわざありがとうございます。広報でお顔を見かけました。」

立場を知られてしまうと気を遣うものだが、こういう出会い、私は嬉しい。

「衣替えの時にまた来ます。」

そう告げてお店を後にした。

地域の皆様に支えられての自分だなと改めて感じる。

「主体性について思う」その②

②「自己決定の場面設定」

主体性のない子供は、「自分で決める力」が弱い傾向にあります。「服をどれにするか」「外食先のメニューはなにがいいか」など、ささいなことで良いので、「どうする?」と子供に聞くのです。自分で決める練習を積み重ねることが重要です。自己決定には責任が伴います。だから自分事として捉えやすくなるのです。近い将来、子供達は受験をすると思いますが、親が決めた進路に進み自分で決めた進路に進まなかったとします。壁に突き当たった時、その言い訳は「親がこの学校に行けと言ったから…」となります。責任感の欠如につながり、主体性や自己肯定感の減少もみられるようになります。負のスパイラルから脱却するためにも、小学生段階から積極的に自己決定の場面を経験させることが重要です。

③「自己肯定感を育む」

前述しました自己肯定感ですが、「自分で考え、判断し、責任をもって行動する」力である主体性、実は、この主体性を発揮するためには自己肯定感が欠かせません。「失敗しても大丈夫」「このままの自分を受け入れ、サポートしてもらえる」という自己肯定感があって初めて、「やってみよう」「挑戦してみよう」と思えるのです。子供の失敗を責めるのではなく、「もう一度やってみよう」「応援してるよ」という姿勢が大切だと思います。

④「個性を受け入れる」

「今日はこの服を着たい」「外遊びよりもお絵かきが好き」「辛い食べ物に挑戦したい」など、ふとした瞬間に子供の自主性の芽が出ることがあります。しかし、それが親の予想から外れていると「それはやめたら?」「絶対むりだよ…」など、ネガティブな言葉かけをしてしまいがちなんです。折角興味をもったことを否定され続けると、子供はやはり「言われた通りにしておこう」と思ってしまいます。いかに子供の興味や個性を受け入れることが大切なのか解ります。興味関心から始まる活動や勉強は、子供の探求心をくすぐり、「もっと知りたい」「こんなこともやってみたい」という主体的な学びへとつながります。また、予め与えられたゴールを目指すのではなく、試行錯誤を繰り返しながら子供達自身でゴールを見つけることも大切です。ちょっとした工夫で子供の主体性を育てることができるんですよ。(その③へつづく)

シリーズ「自分を語る」#36

手術が決まってからは、もう「諦め」というか「腹をくくった」というか、痛みはあるものの、どこをどうすれば痛みが治まるという先の見通しができて、少し安心したのを覚えています。手術日は平成3年11月22日と決まりました。

手術まで1週間弱です。この間、様々な検査が行われました。先ず、腎椎造影検査の再検査です。これは、前の病院で撮った画像の解像度が低く、撮影した日から随分時間が経っていたことが再検査につながったようです。どこでやってもこの検査は痛いです。しかも、熊本整形外科で検査を行った時は、ヘルニアの部分が巨大過ぎて、造影剤が脊柱管にうまく通らないので、上下2か所から造影剤を注射するという方法がとられました。2回針を刺すという処置です。これも治療のため、仕方がありません。

次に行きましょう。次、看護師さん方は「血ガス検査」と言っていましたが、確かこれは「血中酸素濃度」を測る検査だったと思います。鼠径動脈から動脈血を採血します。足の付け根の部分に、ほぼ直角に針を刺します。結構深く刺します。動脈は静脈に比べ少し深い所にあるそうで(それだけ大事な部分なのでしょうね。)、もう怖くて怖くてたまりませんでした。痛みはそんなになかったのですが、その後圧迫止血をするのが大変でした。普通の静脈注射のように軽く押さえるだけではないのです。執刀医の先生が親指で5分ほど押さえた後、看護師さんが交代され、延べ20分くらい圧迫していました。動脈の血流がそれだけ強いんだろうなぁ、とぼんやり思いました。

3つ目の検査と言いますか、あとは細々した多くの検査をしました。肺活量の検査、腎機能検査、血液検査…。腎機能の検査は面白かったです。早朝(6時ごろ)に看護師さんが来て「水を今から600cc飲んでもらいます。その後の尿量を測ります。」とのことでした。「なるほどぉ」と感心していましたが、私はベッドからも移動が困難だったため、水を飲むのも、おしっこも全てベッド上でしたので、水は飲めたものの、おしっこが中々出ませんでした。しかも看護師さんは、目の前で行ったり来たりしています。大変でした。

手術前日は剃毛(脇から下と膝から上の全てを剃りました。)を行って、もうほんとまな板の上の鯉でした。何度も看護師さんが血圧を測りに来ていました。普通なら眠れるのですが、さすがに手術前日は緊張と恐怖で中々眠ることができませんでした。今後のこと、将来のこと、仕事、恋愛…。多くのことが頭の中で動き回りました。結局ウトウトしたころに、朝が来た感じでした。

手術当日は、朝の浣腸から始まりました。トイレを済ませ、次に筋肉注射を両腕に一本ずつ打ったのですが、ここから私は少し「ハイ」な状態になっていきます。やたらと喋り出して、それには脈絡が無く、とにかく手術室に入るまで喋り続けていたそうです。家族から「頑張れよ。」と声をかけられ、手術室に着くと、照明灯があってその近くに点滴があったことは覚えていますが、マスクをかけられ「ゆっくり深呼吸して数を数えてください。」と言われ、その通りにすると、あっという間に意識が遠のいていきました。手術開始は午前9時だったと思います。この5時間後に、病室に戻ることになります。これから4週間の生活はとても辛く、二度と経験したくないものです。(つづく)

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　)